

令和元年度 第2回 CPD 技術研修会 および IR 講演会

1. はじめに

道央技術士委員会では、令和元年 11 月 22 日に(株)タナカコンサルタント会議室において、令和元年度 第2回 CPD 技術研修会 および IR(カジノを含む統合型リゾート)講演会を開催しました。

以下、開催概要について報告します。参加者は16名でした。

(1) CPD 技術研修会

①発掘された厚真町の歴史と地震

／(株)胆振 矢野 加奈氏

②ドライアイスによるコンクリート内部の健全性診断システムの開発

／(株)メイセイエンジニアリング 田中 秀典氏

③技術者の心構え

／元苫小牧市副市長 中野 裕隆氏

(2) IR 講演会

苫小牧国際リゾート構想

／苫小牧市役所 成田 晃氏

2. CPD 技術研修会

(1)発掘された厚真町の歴史と地震について

遺跡関連業務に携わってきた経験を持つ(株)胆振の矢野氏より、厚真町の遺跡分布や縄文人の想定移動ルート、発掘された遺物の紹介等がありました。



写真-1 矢野加奈氏による発表



図-1 厚真町で発掘された遺物

遺跡調査が行われた厚幌ダム堤体近くの厚幌1遺跡の地層を示し、地すべりに巻き込まれた縄文時代の土器や堆積物の断面等から、4000年～2500年前の間に大地震が発生していた可能性が高いことの発表がありました。

平成30年に発生した北海道胆振東部地震との共通点や災害考古学の必要性の説明があり、興味深い報告でした。

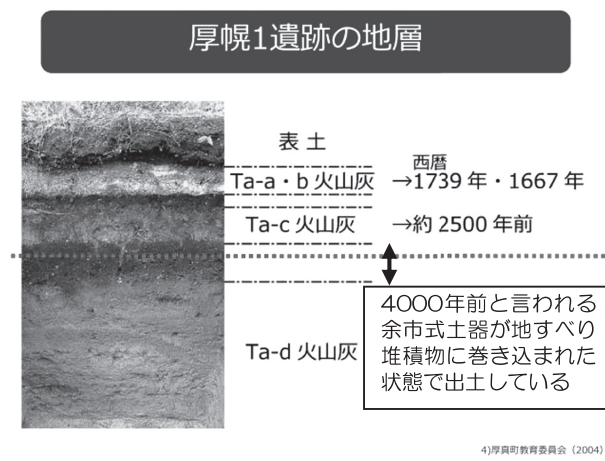


図-2 厚幌1遺跡の地層

4)厚幌町教育委員会 (2004)

(2) ドライアイスによるコンクリート内部の健全性診断システムの開発について

(株)メイセイエンジニアリング 企画室の田中氏より、ドライアイスを用いたコンクリート内部の健全性診断システム(以下、DDSD)の開発について発表がありました。



写真-2 田中秀典氏による発表

DDSDは、従来の打音法や電磁波レーダー法、遠赤外線法とは異なる非接触型で日照や気温の制約を受けない新たなコンクリート診断方法であります。その概要は、対象壁面にペレット状のドライアイスを射出して打撃、指向性マイクロフォンを用いて打撃音を収録し、周波数解析により診断を行うものであります。

供試体および実際の構造物による検証では7割弱の精度であり、判別手法の改良として現在はAIによる判別実験を実施中との説明がありました。

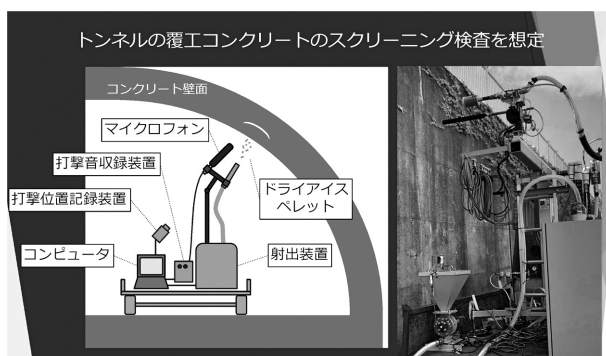


図-3 システムイメージ

(3) 技術者の心構え

元苫小牧市副市長 中野氏より、「技術者の心構え」と題して、ご自身の業務経験から「自分の頭で考え

る」こと、「常識を疑う」ことの必要性について発表がありました。



写真-3 中野裕隆氏による発表

若い技術者に向けては、「若い時の時間の大切さ」、「1日でも早く資格を取る」といったご説明がありました。

3. IR 講演会

苫小牧市役所 総合政策部国際リゾート戦略室の成田氏より、苫小牧国際リゾート構想について、人口減少、少子高齢化が進む中、苫小牧市がIRの誘致活動をした経緯や取り組み、またギャンブル依存症の対策等についてご講演いただきました。



写真-4 成田 晃氏による講演

苫小牧市が北海道の誘致候補地でしたが、11月29日に北海道知事より将来的誘致を含みながらも、自然環境の保全等の観点から今回の誘致は断念するに至ったとの表明がありました。

4. おわりに

道央技術士委員会では、CPD 研修会や施設見学会を行っております。今後も技術研鑽に励み、委員会の活性化と技術向上に努めたいと思います。